

第2回「真砂地区学校適正配置地元代表協議会」 議事要旨

1 日時・場所・参加者

(1) 日時 2月13日(水)16時~17時30分

(2) 場所 美浜区役所3階会議室

(3) 参加者

ア 協議会委員

イ 教育委員会 山崎企画課長、山下主幹、加茂主査、伊藤主査補

ウ 傍聴者 5名

2 協議の内容

真砂地区学校適正配置の方向性の課題について

議長は、森本希久江氏が行った。

協議会委員から要請があった真砂地区の学校施設や教員配置の状況等の報告がなされ、質疑応答が行われた。

次のことについて、承認した。

次回は真砂地区学校適正配置の方向性の課題を洗い出していくこと。

次回は平成20年6月4日(水)午後4時より、美浜区役所3階会議室で行うこと。

次の提案について、承認した。

議事要旨については各委員の確認後、教育委員会のホームページで公開すること。

委員変更や協議会欠席の場合には、事務局である教育委員会企画課に連絡すること。

次回の協議のために、学校適正配置の方向性の課題や必要な資料等を3月31日までに事務局に連絡すること。

3 質疑応答及び意見の概要 (敬称略)

【真砂地区の学校施設や教員配置の状況について】 回答は企画課

土屋敏秋 真砂第一中への地震計の設置は決まっているのか。

成田 真砂第四小に子どもルームを設置する計画はあるのか。

回答 地震計は所管課である総合防災課から設置を予定していると聞いている。子どもルームについては、予算要求をしていると聞いているが、予算が通ってから確定することになる。

土屋敏秋 真砂第一中は耐震補強をする予定はあるのか。

回答 計画は現在策定中と聞いている。学校適正配置の状況も見ながら、計画を策定するだろう。

久保田 真砂第一中は地震計を設置するので、耐震補強はしないのかと思った。平成25年の推計は確かなのか。真砂地区にも空き地があるので心配な面がある。

回答 開発については具体的な計画の事前協議があれば、推計に入れている。転出入については、転入と転出で±0として計算している。出生率等を加えることも考えられるが、地域の状況で異なってくる。

久保田 通学距離は直線距離なのか、実際に子どもたちが歩く距離なのか。

回答 この距離は、災害時の避難経路マップを基にしている。実際に歩く距離である。

久保田 災害が起これば、ライフラインが断たれる。学校は住民たちの避難所になっている。避難所として使う世帯や人数を出してほしい。

- 佐藤 自分も稲毛海岸・高洲地区の説明会に参加させていただいたが、真砂1丁目については地域や保護者の意見を聞きたい。
- 土屋敏秋 今回の話し合いの枠組みは、教育委員会のほうで線引きを決めたことなので、協議の席に参加してもらった方がよいのではないかと。どうするのがはっきりしないと協議が進まないと思うがいかがか。
- 回答 協議の進め方だと考えている。はじめから1丁目を入れるのではなく、他の案件と並行して議論していく方向ではどうか。今回教育委員会で示した地域の枠組みの考え方として、学校の規模と配置も考慮している。通学の安全性や距離などもその中に含まれるだろう。真砂1丁目内での議論も必要だと考える。
- 岩井 過去のことはあるが、真砂1丁目が高洲地区の活動にあまり協力的ではなかったということもある。真砂というよりも、高洲第二中としてのまとまりを重視してきた経緯もある。教育委員会としては、そのことなども考慮して、今回の線引きをしたのだろう。協議会委員としてではなく、オブザーバーとして参加を呼びかけてはどうだろうか。
- 成田 学校適正配置は、子どもたちの将来に向けて話し合うことが大切であろう。小中一貫教育などを取り入れることも考えられる。協議が進んだ後に真砂1丁目を入れるとなると検討しなかなければならない事態もありうる。早めに協議に入れた方がよいだろう。
- 佐藤 真砂1丁目の件については、この地区の課題であると教育委員会も認識している。磯辺6丁目が(今になって真砂地区から)切り離されたようなことを繰り返してはいけないだろう。私もよく状況を掴みきれていないので、今回は真砂1丁目周辺を含んだ地図や学校規模の変化、通学路等についての資料を提示してほしい。
- 嶋田 学校の校舎の耐用年数は何年か。
- 回答 60年(減価償却における耐用年数は別途規定)ではあるが、立地場所の状況等で変わる。
- 嶋田 美浜区は地盤が弱い。打瀬地区にできた学校のように、場所が確保できるならば(耐震性も十分な)すばらしい学校を造った方がよい。
- 回答 校舎は既存のものを使うが、改修を基本としている。新しく造るとなると、1校あたり30億という相当な財政負担となる。機会があれば、改修により新しくなった花島小を参観していただきたい。
- 矢口 各学校の校舎の図面は無いのか。耐震をどこまで行っているのか知りたい。
- 嶋田 (県は)まだ新しかった幕張にあった高校3校を壊したが、小学校はこの先長期間にわたり使うことになる。十分考えた方がよい。
- 阿部 保護者の立場からすると、耐震性や地域コミュニティではなく、(統廃合による)子どもたちのおかれる状況が心配である。避難場所については、学校以外に区役所や文化ホールを使うという方向もあるだろう。話し合うスタンス(論点)がまったく異なっている。真砂の街がよりよくなるような方向で話し合いを進めたい。真砂1丁目の件については、どうするかをある程度決めてからでないと意見の集約はできないだろう。
- 議長 今はまだ、真砂1丁目をどうするかという結論を出すのではなく、課題を洗い出す段階であろう。
- 土屋敏秋 次回のテーマは何か。真砂1丁目をどうするのが決まらないと議論が進まないのではないかと。その議論を行いたい。
- 矢口 次回までには稲毛海岸・高洲地区での話し合いも進むだろう。稲毛海岸・高洲地区の協議会の状況を報告していただきたい。
- 土屋敏秋 資料については、1週間前までには送付してほしい。